

## 論文の内容の要旨

論文題目 施工管理・実施プロセスにおける  
IT適用インパクトの評価に関する研究

氏 名 高 允 溶

本研究は、

①IT ツールの特徴と建築生産における施工管理・実施プロセスの特性を共通認識できる記述手法を提案し、

②実際の IT ツール適用事例へ提案した記述手法で表現し、IT ツール適用のインパクトに関して分析を行い、今後 IT ツールの適用を試みる場合において、事前にある程度その適用インパクトについて把握すること

を目的として下記の順で研究が行われた。

2章では、施工管理・実施プロセスにおける IT ツール適用の記述手法を提案するための考慮要素を抽出するために、日本の過去(1980年代～90年代)における IT ツール適用について文献調査を行った後に、文献調査で把握することが難しい事柄に関して、実際に当時の IT ツールの研究や開発に関わった実務者へのヒアリングを行った。

3章では、文献調査とヒアリング調査から明確にされた事柄を基に、施工管理・実施プロセスにおける IT ツール適用にして、どう記述表現したら IT 適用のインパクトを明確に把握することが出来るか考察を行った。考察後、記述を行う方法を調べるために、プロセスの記述に関する既往研究について調べた後、記述手法を構築する過程での様々な試行錯誤に関して整理した。最終的には、記述手法を提案することができた。

4章では、提案した記述手法が当初の目論見通りに、施工管理・実施業務へ IT ツールを適用した事例が記述できるのか、全 22 事例を用いて確認を行った。その結果、当初の目論見通り記述できることが確認された。

5章では、4章で記述された事例を基に施工管理・実施業務へITツールが適用されたタイプに分類し、各タイプ毎にそのインパクトに関して分析を行った。その結果、タイプ毎に共通するインパクトを抽出することが出来た。この共通するインパクトは今後のITツール適用を試みる場合に参考する貴重な下敷きになると思われる。

下記、成果について整理を行う。

1. ITツールを適用した例に対して、そのプロセス内容を管理・情報・実作業の観点から、明確に記述できる記述手法に関して明示できた
2. ITツール適用のタイプによるインパクト(共通・特殊)に関して明示できた
3. 提案された記述手法と抽出された共通インパクトを用いて、ITツール適用を試みる場合の利用可能性について明示できた。